

2-3. 高大連携事業

学園連携推進室は平成19年4月に「学園は一つ」の方針の下に、各設置校の連携協力を円滑に進めるためにできた部署である。その中でも特に、京都文教高校から京都文教大学・京都文教短期大学への進学をスムーズに進めるために、行事の企画運営を主たる業務とし、ALP（アドバンスト・レクチャープログラム）制度の運営にあっている。

ALP制度とは、京都文教高校の生徒が京都文教大学・短期大学に入学するための特別推薦入学システムである。大学・短大が用意する特別講義を受講し、その成績が評価されると、京都文教大学・短大への特別推薦者として学校長から推薦される。講義は大学・短大の現職教員が担当し、直接高校を訪問して行われる。高校2年生の10月から1月まで（前期ALP）と、高校3年生の4月から7月まで（後期ALP）が講義期間である。

平成22年度は京都文教高校から京都文教大学に28名、京都文教短期大学に49名が進学し、そのうちALPを受講した生徒は、大学18名、短大41名であった。

以下は平成22年度に行われたALP制度に関連する高大連携事業の報告である。

【本年度に実施したALP関連プログラム】

＜高校1年生対象プログラム＞

1. 「宇治キャンパス体験ツアー」の実施（7月）

京都文教大学・短期大学のある宇治キャンパスを訪問し、大学進学への動機付けと、文教大学・短期大学を身近に感じてもらうために実施した。

＜高校2年生対象プログラム＞

1. オープンキャンパス体験プログラムの実施（8月）

大学・短大のオープンキャンパスに参加し、将来大学に進学するか短大に進学するかを決めるための機会とした。

2. 前期ALP開講式の実施（10月）

ALPの開講日に、生徒への激励と受講上の諸注意を伝えるために開催された。

3. 前期ALP終了式実施（3月）

成績表を渡し、前期ALPの評価と今後に必要なアドバイスをする機会となった。

＜高校3年生対象プログラム＞

1. 「後期ALP終了式」開催（7月）

成績表を渡し、大学進学を考えて今後の高校生活の過ごし方などをアドバイスした。

2. 修了認定書を授与（8月）

前期・後期ALPの成績を評価し、合格者に修了認定書を授与する。それに基づいて、生徒は希望する学科に高校から京都文教大学・短期大学に特別推薦される。

3. 京都文教高校新入生交流懇談会（3月）

京都文教大学・短期大学に4月から入学する文教高校卒業生に、大学長・短大学長からメッセージを送り、また、学生生活上のオリエンテーションを行うことで、大学生活を充実させ、良き社会人として成長することを期待する会である。

◎2010年度 ALP（アドバンスト・レクチャープログラム）講義内容一覧

後期ALP 高校3年生（4月26日～7月13日）

回	日時	講座名	講座内容	担当講師
1回	4/20	臨床心理学からみたこころのありか	錯覚の心理学について紹介し、錯覚が生じるということとはどういうことなのか、一緒に考えます。そして、個人のこころとは、どういうものか、主観的体験の大切さという点からもお話しします。こころの問題を考えることの意味を体験的に理解してもらいたいと思います。	大学教授 濱野清志
		短大50周年家政学科が変わる！	平成23年度より「家政学科」の構成が変わります。京都文教短期大学50周年事業の一つとして、新しい教育環境の実現に向けて歩み出している姿を紹介します。	短大教授 森井秀樹
		「1枚の写真から」子どもの最善を考える①	一枚の写真から、日常の育児の状況、子育て環境や親・地域・社会の課題や問題点を考えていきます。赤ちゃんを産み、育てていく営みは、愛情はもちろん必要で、その上に生活していくための	短大講師 竹之下典洋

回	日時	講座名	講座内容	担当講師
			条件を整えて初めて成立します。子どもにとっての最善を考察します。	
2 回	5/11	「一人一人にできること」観光バリアフリーのフィールドワークと提案	皆さんの先輩たちが宇治で実施した観光バリアフリー・フィールドワークの取組を紹介し、多様な立場の人々の生活や価値観を理解すること、他者を思いやり、共に生きていくために必要なこと、一人一人にできることを一緒に考えます。	大学准教授 森正美
		メタボについて	肥満・メタボリックシンドロームと食事・栄養の関係については、食事の量と内容が深く関わっていると考えられてきましたが、食事回数や時間帯のリズムにも関与することが明らかになってきています。肥満について学び、食事リズム、生活リズムとの関連について考えてゆきたいと思います。	短大准教授 安藤ひとみ
		幼稚園と保育所の誕生	保育園と幼稚園の違いをその発展の歴史をたどりながら、学び子どもの保育について考える。	短大教授 中島千恵
3 回	5/18	カラーコミュニケーション	色を適切に使うことによって、生活のさまざまな場面で情報を効率よく表現・伝達することができる。そこでこの講義ではまず色の見え方や感じ方の基本的な特性について概説し、さらに色覚異常者に対するカラーバリアフリーの考え方を紹介する。	大学准教授 河本直樹
		私の考えを書くために必要なことは何？①	上手く書けないのはなぜか、「書く」力を高めるにはどうすればいいのか－3回の授業で、このことを考えます。1回目は「固い頭を柔らかくしよう」というのがねらいです。「それが書く力に関係ある？」と思うでしょう。一緒に考えてみましょう。	短大准教授 千古利恵子
4 回	6/ 1	心理学とはどんな学問か？その成り立ちと発展	心理学はどのように誕生したのか？学問としての心理学は、いつ頃、どのように誕生したのかについて、歴史を振り返ってみたい。物理学や化学はどのようにして生まれたか。また、医学や生物学はどのようにして生まれたか。心理学は其中でどういうものか、それぞれの成り立ちを考えたい。	大学教授 森谷寛之
		食と健康－食生活、一緒に考えましょう－	現代の高校生・大学生の食生活や健康の実態について講義し、食生活が健康と関連している現状を理解し、なぜ、食生活について振り返ることが必要かを考える。そして、自分の食生活の現状を振り返り、自分の食生活に問題点はないかを探り、どの様にすればよいかを考える機会を持つ。	短大教授 池田順子
		保育を支える仕組み	日本の保育所を支える仕組みや保育の質を維持するための法的、行政的措置について学ぶ。	短大教授 中島千恵
5 回	6/ 8	日本とデンマークの現場から見る「地球温暖化問題」	地球温暖化防止はわたしたち皆の課題です。では、誰がどれくらい CO2を出して、まじめな話どうしたらその排出を減らせるのでしょうか？日本とデンマークでの、地域社会をベースにしたとりくみを比較しながら考えます。	大学准教授 佐藤知久
		食環境をデザインする	「食」とは栄養素だけで語れるものではなく、調理法や盛り付け方、テーブルセッティングなど人間の五感に配慮した快適な食空間を演出することも重要な要素となっている。本講義では、食事をおいしく楽しくするための食環境について考える。	短大助教 古川 彩
		カウンセリングマインドを生かした保育①	現在、幼稚園や保育所において求められている、子ども一人一人に応じた保育（カウンセリングマインドを生かした保育）とは、どういうことか、皆で一緒に考えてみたいと思います。子どもに対する理解と共感の重要性に気づき、考えましょう。	短大講師 河合由里
6 回	6/15	お菓子の科学	食品加工は原料の様々な科学的な変化を利用しています。身近なお菓子の作り方からそこに利用されている科学の例を考えます。	大学准教授 門間敬子
		安全で安心な食生活をおくるために	「〇〇産はこわいね」、「△△は食べないほうがいいらしい」。こんな食の不安が広がっています。この講義では、皆さんが安全で安心な食生活をおくるためにはどのようなことに気を配ればよいか、食品表示などを教材として学びます。	短大教授 田中恵子

回	日時	講座名	講座内容	担当講師
6 回	6/15	「1枚の写真から」 子どもの最善を考える②	一枚の写真から、日常の育児の状況、子育て環境や親・地域・社会の課題や問題点を考えていきます。赤ちゃんを産み、育てていく営みは、愛情はもちろん必要で、その上に生活していくための条件を整えて初めて成立します。子どもにとっての最善を考察します。	短大講師 竹之下典洋
7 回	6/22	青年期の「自分の つくり」と社会の 変化	青年期には、自分をつくることが重要なテーマとなります。ただ、その様子は社会の変化に応じて変わってくると考えられています。日本社会の変化の中で、青年期の自分探し・自分作りがどのように変化してきているのか、考えてみたいと思います。	大学准教授 香川 克
		私の考えを書くた めに必要なものは 何？②	上手く書けないのはなぜか、「書く」力を高めるにはどうすればいいのかー3回の授業で、このことを考えます。2回目は「私が興味をもっていることについて書く」練習です。	短大添削担当 講師 渡邊裕史
8 回	6/29	街のライフ・デザ インー3都市、京 都、カイロ、シン ガポールからー	生活の場である街、働く場である街、遊ぶ場である街。街をめぐるライフ・デザインを3都市、京都、カイロ（エジプト）、シンガポールから考える。安全、快適、便利、堅実、刺激的な街とは？	大学教授 奥野克己
		人の動きはどこか ら生まれる？	日常生活やスポーツを行う時、人間は骨や筋肉を用いて、初めて動作が可能となる。その動かしかった次第で速く走れたり、きれいに歩けたりする。どの様にしたら、「速く走れるのか？」または「きれいに歩けるのか？」を科学的な視点で学習してみましょう。	短大助教 久米雅
		カウンセリングマ インドを生かした 保育②	現在、幼稚園や保育所において求められている、子ども一人一人に応じた保育（カウンセリングマインドを生かした保育）とは、どういうことか、皆で一緒に考えてみたいと思います。子どもに対する理解と共感の重要性に気づき、考えましょう。	短大講師 河合由里
9 回	7/13	現代グローバル化 社会と社会起業家 たち	現代社会は市場経済が一挙にグローバル化した社会であり、光と影の両面を持っている。その影とは、深刻な貧困や飢餓、教育、衛生の不備、疫病流行、差別や環境破壊などの諸問題である。この講義では、果敢にこれらの問題解決に挑戦しているいわゆ「社会起業家」について論ずる。	大学教授 島本晴一郎
		私の考えを書くた めに必要なものは 何？③	上手く書けないのはなぜか、「書く」力を高めるにはどうすればいいのかー3回の授業で、このことを考えます。3回目は「私の考えを述べる」練習をします。	短大添削担当 講師 渡邊裕史

前期ALP 高校2年生（10月5日～1月25日）

回	日時	講座名	講座内容	担当講師
1 回	10/ 5	「文化を学ぶ、文 化を伝える」 ～ 京都・宇治のおみ やげを考えよう～	ある地域の文化について学ぶ、とはどういうことでしょうか？どうやって、目に見えない文化や歴史について学び、学んだことをどのように「見えるもの」に変えられるのでしょうか？本講義では、京都と宇治を題材に、文化を知る方法の基本を学び、文化を伝える試みとして、京都・宇治のおみやげをみなさんに考案していただこうと思います。	大学准教授 森 正美

回	日時	講座名	講座内容	担当講師
1 回	10/ 5	京都文教短期大学への学び	アドバンスト・レクチャー・プログラム（ALP）の目的を理解して頂き、京都文教短期大学の各学科の教育内容と目的が、皆さんの将来の夢を実現できるかどうかをこのプログラムを通じて確かめてください。このオリエンテーションでは、各学科の魅力と求める学生像を紹介します。	短大教授 森井秀樹
2 回	10/12	国際法と国際政治	第2次大戦後の国際社会の大きな変化の一つは、国際法がそれまでの国家間の関係を律する規範のみならず、人権、環境等界のあり方についての規範としての役割を益々増大させつつあることである。海の秩序、地球温暖化問題と京都議定書、国際刑事裁判所など、最近では国際法の最低の知識がないと理解できない問題が増えている。この講義は、国際法への入門として、現実の政治問題に即しつつ、その果たしている役割を説明する。	大学教授 野口雅昭
		食と健康－手指の汚染と洗浄効果	手指の汚染により、手を介して口へと伝わる食中毒や感染症について知り、その予防の第一歩である手洗いの大切さを学びます。また、体験を通して、自分の手洗いの仕方をチェックして、正しい手洗い法を身につけます。	短大講師 高安淳子
3 回	10/26	しゃべっちゃおう きいちゃおう	友達同士のおしゃべりは、ストレス発散にもなるし、新しい情報なども得られてとても有意義なものです。日頃のおしゃべりを授業の中で発揮してみましょう。“しっかりしゃべる”、“積極的に聴く”という体験を味わってください。	大学准教授 三林真弓
		発見！町家を取り入れた洋風デザイン	伝統的な和風スタイルだけが町家ではありません。町家は近代に入り外観が大きく変化します。3階建て化や洋風デザインの摂取により、従来洋風建築として捉えていた建物が、実は町家の発展型であったことに驚かされます。	短大准教授 山田智子
4 回	11/ 2	「普通」であるとはどういうことか	私たちはよく「自分は普通だ」とか、「あの人は普通じゃない」とか考えます。でも、その「普通」が外国では通じなかったりもします。では、「普通である」とは、いったいどういうことでしょうか？ 小説や映画の事例を紹介しつつ、文化人類学と哲学の立場から考えてみます。	大学准教授 佐藤知久
		人物クロッキー	友達をモデルに人物クロッキーをします。短時間で形態の特徴や印象を捉え、鉛筆で描きます。	短大准教授 岡本美晴
5 回	11/ 9	やさしい法学入門	一般的にとっつきにくいとされている法学を、具体事例を使って易しく解説します。	大学教授 樫 博行
		「書く」ということを考える	なぜ「書く」ことは難しいのか？なぜ「書く」力が身につかないのか？このような思いを持っている人は多いでしょう。「書く」ことの意味を考えながら、「書く」力を育てるために必要なことを探します。	短大准教授 千古利恵子
6 回	11/16	「ものの見え方」を測る	目の錯覚＝錯視についての簡単な実験を体験してみます。そして、条件が変わることによって「錯視の量」が変化することを、統計的な手法も若干用いながら、確認してみます。「心の働き」は、意外に幅の広いことがらであることを知ると同時に、「測る」ことの実際に会って見ましょう。	大学准教授 香川克

回	日時	講座名	講座内容	担当講師
6回	11/16	短大生によるプレゼンテーション	京都文教高校出身者による京都文教短期大学の内容紹介 ○学科について ○総合教養科目について ○質問コーナー	短大生 有志
7回	11/30	大学生によるプレゼンテーション	京都文教高校を卒業した先輩に、京都文教大学を紹介していただきます。	大学生 有志
		「おいしさはどうやってつくられるのか？」	食するという行為は、食欲を満たし、健康維持に必要な栄養素を摂取するためだけに行われるのではなく、生活の中の楽しみの一つでもあります。そのためには食事はまずおいしくなければ、役割を果たせません。人が感じるおいしさの要因を考えたいと思います。	短大講師 福田小百合
8回	1/7	食からみる文化人類学 ―マクドナルドとグローバリズム―	みなさんがよく知るマクド、そこでは何を提供し、どのように食べているでしょう。おそらく、すぐに説明ができるでしょう。さてどうしてでしょうか。そのような「わかりやすさの世界」こそ、現在のグローバリズムの特徴だといえます。しかし、ハンバーグ一個が100円で用意できる仕組みときたら複雑怪奇、真似できるならみんながガバガバ儲けています。マクドは売り上げナンバーワンの外食産業です。マクドから食と世界を考えてみましょう。	大学教授 奥野克己
		幼児と音楽 ―保育の現場で求められる音楽表現技術とは―	子どもは、音楽が聞こえてくると自然に体を動かしたり、歌を口ずさんだり、様々な表現をします。実際に、現場で演奏されている曲や音楽表現活動を紹介するとともに、保育者の役割や必要とされる音楽技術・表現力について考えます。	短大准教授 富田英子
9回	1/18	お金の出入りのしくみ	私たちは日々、さまざまな商品を購入するときに必ずお金を使っています。しかし、そのためにはお金を稼がなければいけません。このようなお金の流れを入る側（収入）と出る側（支出）に分けて学習していきます。また、時間があれば上手なお金の使い方についても学習していく予定です。	大学准教授 山本真一
		30年後の健康を今デザインする	まず、今の自分が健康であるかどうか考えた後に、30年後自分の健康がどうあるべきか考える。現在の健康から、30年後の健康を達成するためには何をすればいいかを最終的に導き出す。	短大助教 久米 雅
10回	1/25	「恋愛の心理学」―自己犠牲から自己再創造へ	映画「僕の初恋を君に捧ぐ」等を用いて恋愛について考える	大学教授 秋田 巖
		キャリア形成のための自己理解	キャリア形成とは、これから自分が歩む道のデザインのことです。「自分らしい生き方」の設計は、自分について考えることから始まります。ワークシートの記入と相互インタビューを通して自分を客観視し、自己理解を深めていきましょう。	短大助教 桑原千幸